

令和8年度第1回安曇野市文書館運営審議会 会議概要

- 1 会議名 令和8年度第1回安曇野市文書館運営審議会
- 2 日時 令和8年5月25日 午前・後 10時00分から午前・後 11時30分まで
- 3 会場 南安曇教育文化会館 2階大会議室
- 4 出席者 唐木委員、村石委員、小宮山委員、瀬畑委員、宮澤委員
- 5 担当課出席者 橋渡教育長、三澤課長、逸見係長、山下文書館長、松澤主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和8年6月2日

協 議 事 項 等

【協議事項】

- 1 令和7年度事業報告について
- 2 令和8年度事業計画について

【会議概要】

- 1 令和7年度事業報告について
 - 事務局 ・資料1について説明。
 - 委員 ・利用実績について、当該年度のものだけではなく過去の実績も出していただくと、令和7年度の評価ができる。また、目標値について、これは毎年設定し直しているのか、毎年同じものなのか。
 - 事務局 ・過去の実績については、次回以降提示したい。また、目標値については、現在のところ毎年同じ数値を設定している。
 - 委員 ・目標値について、講演会・講座数は年度当初から決まっているものなので対応してほしい。資料の受け入れ数は予測できないが、資料を整理する職員数などで臨機応変に考えていってはどうか。
 - 事務局 ・次年度以降、検討していく。
 - 委員 ・令和7年度に出前講座の回数が増えていて主催者が多様になっているが、何か理由があるのか。
 - 事務局 ・学校連携に伴う出前講座については、校長会等で周知しているが、例年と回数は変わらない。その他の出前講座は、当館では特に周知活動はしていないが、地域づくり課が行っている出前講座のメニューに掲載しているので、その影響もあると考えている。また、文書館の認知度が上がってきたことや、臼井吉見に関する講座は小説『安曇野』の大河ドラマ化の動きも影響していると考えている。
 - 委員 ・近年、大災害が増えている。先日、安曇野市域でも停電があったが、災害発生時の対応について進捗状況はどうか。
 - 事務局 ・災害発生時の対応については、マニュアルの作成を含めなかなか進んでいないが、停電に対しては、当館の文書検索システムサーバーには非常用バッテリーやバックアップをつけて対応している。ただし、サーバー本体とバックアップが同じ場所にあるので、別置できるよう対応を検討している。

- 委員 ・資料の相談・受け入れから、整理、データベースへの登録、目録公開まで、平均的にどのくらい期間がかかっているのか。また、対応する職員数について、参考までにお聞きしたい。
- 事務局 ・公文書の受け入れについては、主に3名の職員で対応している。年度内に移管された文書は、年度内に処理するよう努めている。地域資料については、令和7年度は、1つの家で約1万2千点にもおよぶ資料の寄託があった。この資料群については、地元の調査員11名にも協力いただき約4年かけて整理をおこなった。当館には古文書の読める職員が少ないので、調査員の協力が不可欠で、大変ありがたく思っている。なお、資料点数が少ないものについては、できるだけ早く処理はしているが、やはり資料点数が多いものについては1年以上の時間をいただいているのが現状。
- 委員 ・私も市民として、地域資料の寄贈・寄託に関わったことがある。その中で感じたことは、文書館に寄せる信頼感がかなり醸成されてきたことである。文書館のこれまでの取り組みが、市民に周知されてきたのではないかと思う。市民と文書館が近い関係を作れているのはこの館の特色の一つではないかと思うがいかがか。
- 事務局 ・地域資料については、市内外の皆さんの協力なくして集められない資料であるので、引き続き地元の方との信頼関係をしっかり築いていけるように努めていきたい。
- 委員 ・子ども向け講座について、子ども達は将来、大人になって、そして市を支えていくわけなので、ぜひ今後も進めていただきたい。また、保護者や地域の方も子どもと一緒に参加していた。このような地道なところが大事だと思う。
- 委員 ・市誌編さんに関わって、基本方針の再検討、編集方針について補足説明を。
- 事務局 ・基本方針の中で、編集方針とうまく分かれていないところがあった。今回は、編集方針をきちんと作ろうという事で、基本方針の再検討と編集方針を新たに項目を設けて作ることにした。基本方針に大きな変化はないが、変わった点としては市誌編さんを行う過程で収集した資料の保管先である。今までは市誌編さんの過程で収集した資料は文書館に納めることが書かれていたが、文字資料以外にも民俗資料や自然史の資料など博物館が納めるべき資料も出てきた。そのため、文書館や博物館等で収蔵・整理・公開していく旨を記載した。編集方針は、書籍そのものをどういう体裁にしていくかという事である。

2 令和8年度事業計画について

- 事務局 ・資料2について説明。
- 委員 ・望月桂に関する企画展について、先日行われた講座に参加したが、いつもと違う方々が参加しており、明科地域の方も多かったとうかがっている。この企画に期待していることが肌で感じられた。他館との連携もあるという事で期待している。また、公文書等も使っている事がポイントだと思う。望月桂が残した作品だけではなく、こういう文書館に保存されている資料が表に出てくるのが大切だと思う。
- 委員 ・市誌編さんについては、その経過を市民として楽しみにしている。一市民としては、広報等に掲載のおたよりが経過を知るために重要となってくるので、引き続き頑張ってください。
- 事務局 ・望月桂に関する企画展は、明科地域の方が多く来ている印象。新たな客層を呼び込めたと感じている。

委員 ・先日、新市立博物館に関する提言書が出された。文書館のこともでてきているが、この提言書に書かれているソフト面のことは文書館が進めていることも多々ある。10年前の博物館構想の中で新たに出来たのは文書館だけと認識している。そういう意味では、新博物館構想の中で重要な位置付けを持っているのは文書館だと思うが、その位置づけや方向性等についてお話いただきたい。

事務局 ・新市立博物館構想を進めていく中で文書館がどういう役割を持つかということだが、新市立博物館ができたとしても、文書館で紙物の資料を収集することには変わりはない。また、安曇野の歴史を伝えていく大きな柱としてやはり人物顕彰がある。その役割を文書館と臼井吉見文学館と一緒に担っていく必要があると考えている。そして、収蔵スペースについては、文書館も限られたスペースしかないため、博物館と共に考えていきたい。